



|              |                                                                                     |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | はじめに：グローバル人材育成へのGLOCOLの挑戦                                                           |
| Author(s)    | 安藤, 由香里                                                                             |
| Citation     | GLOCOLブックレット. 2014, 14, p. 5-9                                                      |
| Version Type | VoR                                                                                 |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/50030">https://hdl.handle.net/11094/50030</a> |
| rights       |                                                                                     |
| Note         |                                                                                     |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# はじめに

## グローバル人材育成へのGLOCOLの挑戦

### 安藤由香里

大阪大学グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）特任助教

大阪大学グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）は、国際協力と共生社会に関する研究を様々な学問分野で推進し、真の国際性を備えた人材養成のための教育を開発するとともに、その成果等にもとづく社会活動を実践することを目的とする機関である。GLOCOLが2007年4月に設立された背景には、大阪大学と大阪外国語大学の統合にともない、総合大学としての大阪大学と、言語・国際研究を専門とする大阪外国語大学、双方の特性研究教育資源を有効に活用することで、大阪大学の教育目標のひとつである「国際性」の強化を目指す試みがあった。

とりわけ研究・教育・実践の実践部分を強化するために、2010年8月にGLOCOL内に設置されたのが、「海外体験型教育企画オフィス」(FIELD O)である。通称FIELD Oは、FIELDでDOする、すなわち、海外での実地(Field)で体験・実践(Do)することを意味している。

大学が研究・教育分野で長年の実績を積んできたことを疑う余地はない。日本が好む好まずにかかわらず、着実にグローバル化は進んでいる。そして、グローバル化に対応するためには、研究・教育だけでなく、実践においても日本社会をリードできる人材が必要となってきた。高等教育機関である大学は、研究・教育に優れてはいても、残念ながら「実践」の経験の少なさが大きな課題となっている。

FIELD Oの目的は、大阪大学全学の大学院生および学部生を対象に、海外フィールドスタディおよび海外インターンシップ等の現場での活動について、学内の様々な部局および学外とコラボレーションし、グローバル人材、国際協力、開発の分野で活躍できる人材および共生社会の実現のために資する人材育成を、より一層推進し、国際協力のハブとなることである。

FIELDOで、上記ミッションを達成するための大きな柱として  
いるのが、海外フィールドスタディおよび海外インターンシップ  
である。2012年度と2013年度に、GLOCOLが実施した海外フィー  
ルドスタディ等の名称と参加学生の人数は表1のとおりである。  
また、海外インターンシップおよび海外プレ・インターンシップの  
派遣人数は表2のとおりである。

表1 2012・2013年度海外フィールドスタディ等

| 2012年度                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 「生態環境と水資源」(中国)<br>派遣:2012年8月4日～10日 参加学生:6名                                              |
| 「生物資源と環境」(タイ)<br>派遣:2012年8月5日～9月9日 参加学生:10名<br>受入:2012年7月12日～26日 参加学生:7名                |
| 「食と健康環境」(タイ・ベトナム)<br>派遣:2012年8月8日～18日 参加学生:5名(学外からの参加2名含む)<br>受入:2012年9月17日～28日 参加学生:6名 |
| 「メコン」(ベトナム)<br>派遣:2012年8月10日～28日 参加学生:5名                                                |
| 「開発と生存環境」(モンゴル)<br>派遣:2012年8月21日～31日 参加学生:5名                                            |
| 「国際機関の活動を知る」(スイス・フランス)<br>派遣:2012年9月8日～17日 参加学生:10名                                     |
| 「グローバル化時代の生活習慣の変化と健康問題」(パラオ)<br>派遣:2012年9月10日～19日 参加学生:4名                               |
| 「少数民族の伝統と近代化」(タイ)<br>派遣:2012年9月12日～20日 参加学生:6名                                          |
| 「コミュニティ防災―命を守るためのつながりを学ぶ」(インドネシア)<br>派遣:2012年9月14日～23日 参加学生:3名                          |
| グローバル・パートナーシップ・プログラム「米国プログラム」(アメリカ)<br>派遣:2012年10月24日～30日 参加学生:10名                      |
| 「紛争と平和」(韓国)<br>派遣:2013年2月8日～17日 参加学生:3名                                                 |
| 「貧困削減とBoPビジネス」(バングラデシュ)<br>派遣:2013年2月23日～3月5日 参加学生:6名                                   |
| グローバル人材ゲートウェイ・プログラム「ドイツ再生可能エネルギー研修」(ドイツ)<br>派遣:2013年2月24日～3月3日 参加学生:14名                 |
| 2013年度                                                                                  |
| 「開発と保護:環境保護遊牧民組合を作る」(モンゴル)<br>派遣:2013年8月4日～14日 参加学生:3名                                  |
| 「生物資源と環境」(タイ)<br>派遣:2013年8月5日～9月9日 参加学生:12名<br>受入:2013年9月15日～2014年7月6日(予定・随時) 参加学生:18名  |
| 「開発と社会・環境変化」(ラオス)<br>派遣:2013年8月29日～9月7日 参加学生:5名                                         |

|                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------|
| 「国際機関の仕事を知る」(イタリア)<br>派遣:2013年9月7日～15日 参加学生:4名                             |
| 「コミュニティ防災―命を守るためのつながりを学ぶ」(インドネシア)<br>派遣:2013年9月15日～24日 参加学生:5名             |
| 「カンボジアにおけるNGO活動の外部評価」(カンボジア)<br>派遣:2013年9月26日～10月4日 参加学生:5名                |
| 「シリコンバレー・ソーシャルイノベーション海外実習」(アメリカ)<br>派遣:2013年10月24日～11月1日 参加学生:10名          |
| 「紛争と平和」(韓国)<br>派遣:2013年12月21日～26日 参加学生:3名                                  |
| 「貧困削減のためのモノづくり」(バングラデシュ)<br>派遣:2014年2月8日～18日 参加学生:4名                       |
| 「中国文化コロキアム」(台湾)<br>派遣:2014年2月12日～21日 参加学生:8名                               |
| グローバル人材ゲートウェイ・プログラム「ボストン ハーバード大学・MIT 研修」(アメリカ)<br>派遣:2014年3月3日～10日 参加学生:8名 |

表2

|        | 海外インターンシップ派遣 | 海外プレ・インターンシップ派遣 |
|--------|--------------|-----------------|
| 2012年度 | 9名           | 11名             |
| 2013年度 | 7名           | 10名             |

FIELDOは様々なフィールドスタディを企画・実施してきたが、  
そのなかでインターンシップの要素を取り入れたフィールドスタ  
ディとして企画したのが、『海外フィールドスタディ S「国際機関の  
活動を知る」(スイス・フランス)』である。「フィールドスタディ」と  
うたってはいるが、「インターンシップ」の趣旨が濃い性質を有し  
ており、他のフィールドスタディのプログラムとは異なった性格  
となっている。なぜ、敢えて初の試みを行ったのか。それは以下  
に述べるグローバル人材の要素の滋養に密接にかかわりがある。  
グローバル人材の要素は、様々な議論があるところではある  
が、次の3要素が重要であることに異論を唱える者はいないで  
あろう。すなわち、①調整力、②コミュニケーション力、③柔  
軟性である。調整力とは、グループをまとめ、リードしていく力  
であり、グループメンバーのモチベーションを維持させる力であ  
る。コミュニケーション力とは、語学力も含めた、プレゼンテー  
ション能力である。柔軟性とは、多様なものを受容する力であり、  
新しい環境に適用できる力である。  
各大学では、グローバル人材育成のための取り組みがなされ

ている。しかし、海外フィールドスタディに、海外インターンシップの要素を採り入れた、プレ・インターンシップとしての海外フィールドスタディを実施している大学は非常に少ない。例えば、東京外国語大学の大学院生がハーグの国際司法裁判所等へ行った事例<sup>1</sup>、中央大学の学部生が国際労働機関(ILO)ジュネーブ本部国際労働基準局で短期インターンをしている事例<sup>2</sup>がある。大学から国際機関にインターンを派遣している事例としては、大阪大学GLOCOL<sup>3</sup>や国際公共政策研究科のほかには、名古屋市立大学の学部生が国連食糧農業機関(FAO)ローマ本部水産局で定期的にインターンをしている事例<sup>4</sup>、名古屋大学大学院国際開発研究科が国際移住機関(IOM)各国事務所定期的にインターンを派遣している事例<sup>5</sup>、早稲田大学が経済開発協力機構(OECD)パリ本部定期的にインターンを派遣している事例等がある。

まだまだ大学と国際機関とのコラボレーションは少ないのが現状ではあるが、このコラボレーションは、グローバル人材の3要素①調整力、②コミュニケーション力、③柔軟性を育成することに非常に適していると考えられる。とりわけ、学生が、インターン中に、国際機関で働くロール・モデルを身近に見られることは、自らのキャリアデザインへの目標を設定する機会またはそのヒントとなる貴重な機会であることは間違いないからである。

『海外フィールドスタディ S「国際機関の活動を知る」(スイス・フランス)』は、上のグローバル人材の3要素を短期間ではあるものの、国際機関の活動を実際に見聞することによって滋養しようとした試みである。具体的には、①国際機関のスタッフがどのように様々な事象を調整しているのか(調整力の発見)、②その調整はどのようなコミュニケーションで行われているのか(コミュニケーション力の発見)、③お互いの意見が衝突する困難な問題にどのように取り組み妥協点を見いだすのか(柔軟性の発見)。国

際機関では様々な背景を持つ様々な人が働いており、短期間で国際社会の縮図を垣間みる非常に効果的な場であるからだ。

しかし、残念ながらこのような企画を毎年継続するのは困難であると言わざるを得ない。国際機関の職員は忙しい。学生に時間を割きたくても、そうできない事情があるかもしれない。そして、企画実施者が相手方との調整等の準備に相当の時間を費やすことが必要である。以上のような様々な理由から今後継続することが困難であるかもしれない。それゆえに、ご協力いただいた方々の理解や時間を無駄にしないためにも、出版という形で、何が具体的に挑戦なのか、どのように解決しようとしたのか、プログラムの実施からどのような結果を得たのか、解決できなかった問題は何か、を明らかにしておきたい。そして今後のグローバル人材育成にあたっての課題について考えるための土台としたい。これがこの本ブックレットを出版するにいたった理由である。

本ブックレットは、具体的なフィールドスタディの挑戦と各教員が日々直面しているグローバル人材育成への挑戦の二部構成となっている。前半で、『海外フィールドスタディ S「国際機関の活動を知る」(スイス・フランス)』について述べる。企画および準備段階の経緯について紹介した後、実際のフィールドスタディの活動を紹介する。フィールドスタディで訪問した各機関での活動について、学生の所感を交えながら、担当教員の所感を述べる構成となっている。ブックレット読者に、学生の実態を知ってもらいたいという意図から、学生が実際に各国国際機関のリーダーとして代表で専門家を前にプレゼンテーションする際に使用したパワーポイントを掲載した。後半には「大学によるグローバル人材育成の今後の課題」に関する三本の論文を収録した。これらの論文では、同プログラムの担当教員およびGLOCOL教員がそれぞれの立場からグローバル人材育成において日々直面している課題について考えていることを論述している。

1 『東京外国語大学2009年度欧州スタディツアー実施報告書』等、臨地教育実践による高度な国際協力人材養成(GP)。

2 『中央大学ILO国際労働機関×国際インターンシップGeneva, Switzerland報告書』

3 大阪大学の全大学院生を対象に、IOMジュネーブ本部、UNESCOバンコクとインターンシップに関する覚書を締結し、OECDパリ本部定期的にインターンを派遣している。

4 FAOローマ本部にて聞き取り調査。2012年11月23日。

5 IOMジュネーブ本部にて聞き取り調査。2011年12月13日。